

手ぬぐいが善福寺川の美化に一役！

18日、杉並区立井荻小学校（善福寺1-10-19・梅津典子校長）の5年生57名が、学校の敷地の中を流れる善福寺川をきれいな川にしたいとの思いを、地域の方に伝えるため、オリジナル手ぬぐいの販売を行いました。

井荻小学校は、善福寺川を挟んで敷地を保有しています。教室から、図書館やプールへ移動する際に、善福寺川を渡ります。もちろん、子どもたちは毎日の通学や生活の中でも、善福寺川と隣り合って過ごしてきました。

平成21年、井荻小の5年生が社会の授業で、京都の鴨川をきれいにしたのは、地域の人々の取り組みと知り、いつも身近にある善福寺川を自分たちできれいにできないかと考えるようになりました。そして、放課後などに川沿いの遊歩道の清掃、さらに手作りの看板を掲げ、川の美化を地域の住民に呼び掛けてきました。これらの活動は、代々の6年生の放課後の自主参加活動として受け継がれ、やがて保護者や地域の方々を巻き込み、今では川床に降りての清掃や水質調査を行うようになっていきます。



そんな先輩たちの川を愛する気持ちは、今年の5年生にも受け継がれています。昨年7月には、善福寺川の水源となっている善福寺池の上池と下池を繋ぐ水路を川遊びができるような親水エリアにしたいと、田中区長に夢の設計図を手渡しました。その後、善福寺川を里川に、自然があふれるきれいな川への熱い気持ちは、地域の人にも協力してもらいたいという行動へととなりました。5年生は、総合学習の一環として、社会のしくみを知る授業があり、お弁当の販売などを行ってきましたが、販売と合わせて川の美化を呼びかけたいと、川の美化を呼びかける手ぬぐいを作成することとなりました。

昨年12月に、地域の方に伝えたいメッセージをグループごとに考えました。発表会を開き、保護者や地域の方に投票してもらい、2つのメッセージを決定。ピンク色と水色の2枚の手ぬぐいが出来上がりました。どちらも、子どもたちのメッセージと川や魚などの図柄とともに描かれています。

18日11時頃、学校近くの「うなぎ大和田」駐車場には、15名ほどの子どもたちが通行人たちに元気に呼びかけます。「川をきれいにしましょう。」「川を守りましょう」「手ぬぐいできました。」子どもたちの明るい声に促され、次から次へとお客さんが来店し45枚ほどを販売しました。手ぬぐいの販売は、ここ以外にもJR西荻窪駅前など、全部で4カ所。一枚600円で360枚作成しましたが、その大半が売れるほどの好評となりました。